

12/8 朝日

米軍、オスプレイ全機停止

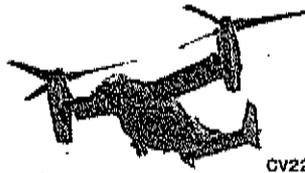
墜落「機材不具合の可能性」

米軍は6日、鹿児島県の屋久島沖で乗員8人が死亡した11月29日の事故を踏まえ、世界で運用する輸送機オスプレイ全機の飛行を一時的に止めると発表した。予備的な調査では「機材の不具合」が原因だった可能性が示された。飛行の一時停止は、調査時間の確保と安全面の慎重を期するための判断だと説明している。

世界で数百機待機

米空軍の発表によると「リスク緩和」のため、事故機と同型機であるCV22の「運用の一時停止」を6日に指示した。

11月29日 鹿児島県の屋久島沖で事故発生
在日米軍が空軍仕様のCV22を停止



12月5～6日 乗員8人全員の死亡を認定、飛行の一時停止を全機に拡大

世界で運用するオスプレイ AP通信による

空軍	海兵隊	海軍
51機	約400機	27機

米軍は事故後、日本国内のCV22の部隊についてはすでに飛行を止めていたが、その措置を世界規模に広げた。事故の予備的な調査では、人為的なミスではない

米軍は事故後、日本国内のCV22の部隊についてはすでに飛行を止めていたが、その措置を世界規模に広げた。事故の予備的な調査では、人為的なミスではない

確実にするための提案に向けて、徹底的な調査の時間と余地を確保するもの「だと説明している。さらに、海兵隊のオスプレイの管理にも責任を持つ海軍の機関が「空軍の運用の一時停止に伴い、オスプレイの全機種を地上で待機させる」と発表した。海兵隊の普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）に配備されたMV22なども対象となる。調査が続く間は「軍人の安全を確保するため、付加的なリスク軽減策を実行している」という。

22など別型機の運用は続けていた。6日までに乗員8人全員の死亡を認定し、6人の遺体を収容したものの、2人は見つかっていない。AP通信によると、米軍が運用するオスプレイは空軍が51機、海兵隊が約400機、海軍が27機に上る。オスプレイをめぐる不具合や事故は世界各地で相次いでおり、飛行が一時的に止まることは過去にもあった。ただ、AP通信は、一度に数百機を待機させるのは「異例の対応」だと報じている。

(フジテレビ「下町佳子」)

沖縄やっとな「遅すぎる」要請・抗議重ね

鹿児島・佐賀「当然」「情報提供を」

墜落後、沖縄県内の自治体では、飛行継続に抗議する動きが広がった。だが、事故を起こした空軍のCV22とは異なる型のオスプレイは、市街地上空を飛び続けていた。

防衛省沖縄防衛局によると、11月29日の事故から7日午前0時ごろまでに、米軍普天間飛行場で計108回、米軍嘉手納基地で計26回、離着陸が確認された。ほとんどが普天間飛行場に常駐する海兵隊のMV22だったが、国内に配備されていない海軍のCMV22も飛来。MV22の一部は屋久島沖の救難活動にも参加していた。関係者によると、7日は夕方までに、普天間や嘉手納への飛来は確認されなかったという。

沖縄県は事故後、オスプレイの飛行停止を米軍に求めるよう政府に2度要請。県議会も7日、同様の意見書と抗議決議を全会一致で可決し

た。玉城デニー知事は、全機停止まで約1週間を要したこと

に「人命を失う重大な事故が起きれば、事故の原因となるものを直ちに停止させて原因を究明するのが鉄則だ。今回の判断はその鉄則から言う

と、非常に遅かった。遅すぎると言ってもおかしくない。結果的に止めるしかなかったという事実について、米軍側は特に反省するべきだ」と述べ、停止期間などさらなる情報提供を求めた。

飛行停止について、事故を自撃した鹿児島県屋久島町の40代の漁師は「安心した」としつつ、「不安を抱えて過ごしてきた。すぐにでも停止してほしい」と話した。事故後、島の周辺では捜索活動のため、オスプレイや米軍機が複数飛んでいた。漁師は「事故原因の究明と公表はしっかりとしてほしい。それがな

ければ、オスプレイは二度と飛んでほしくない」と話した。

事故後、オスプレイの飛行停止を米側に要請するよう国に求めている鹿児島県の塩田康一知事は7日午後、「本県の申し入れを受け止めてもらったものだと考えている」と取材に答えた。

運用停止の判断まで約1週間を要した点について、「人命救助を優先して使用されてきたのではないかと理解を示しつつ、「しっかりと原因究明をし、丁寧な情報提供と説明をしてもらいたい」と述べた。

佐賀県では、陸上自衛隊オスプレイの配備計画に伴い、佐賀空港（佐賀市）の隣に新しい駐屯地建設が進む。山口祥義知事は7日、報道陣に「人為的な操作ミスではない」ということであれば（停止は）当然の判断。徹底した原因究明と情報開示を求めている」と述べた。

（小野太郎、加治肇人、岡田将平）